

**1956** (昭和31年)  
会員数38名

5代理事長  
**三瀬 静一**



日本JCにおいて昭和32年より事業年度・理事長の任期を1月1日より12月31日迄と改めるという事になった。この為、八幡浜JCでも総会に於いて新しく副理事長に山本巖氏を加え、三瀬理事長以下役員留任で12月31日迄引継ぐ事となった。

創立以来四国各地に青年会議所を設立する事に情熱を注いだ甲斐があって、昭和31年迄に四国内にJCが、松山・高知・宇和島・観音寺・大洲・徳島・小松島と相つき誕生、友情の輪は広がっていった。しかし日本JC未加入LOMも多く、日本JCに対し加入申請を促し承認を仰いだ。

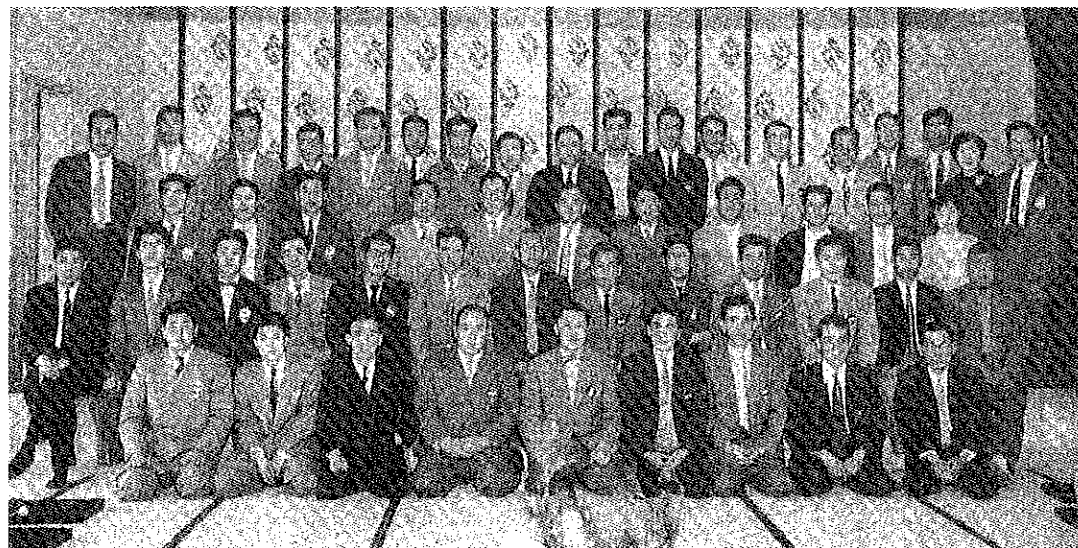
四国JC連合会結成準備会等をして会員大会の機運を盛り上げていったが、31年6月3日高知市において第一回四国JC会員大会を開催し、その会長に三瀬静一理事長が選任されたのである。こうして待望久しい四国地区会員大会が、スタートしたのである。

八幡浜JCがこうして産婆役となり四国の主要都市にJCを誕生させ、日本JCと連絡を取りながら各事業を運営していった。この様にして八幡浜JCは、四国地区におけるJCのパイオニアとしての役割をいかに果たしたのである。

またJC内部では会員相互の緊密を計り、地域に密着した活動を展開していった。

この年3月30日秋田県能代市の大火に対し救助金を贈ろうと、四国内JCに呼びかけ、八幡浜JCでは「能代大火救助金募集及び生活困窮者更生資金募集」と銘うって、市公会堂において、一燈園すわらじ劇団の公演を開いた。

無に生る(時代劇) 秋夕譜(現代劇) 新釈白石断(時代劇) 児童劇を昼夜2回入場料は、大人百円・中人七十円・小人四十円で、すわらじ劇団の芝居は市民に深い感動をあたえた。



県内JC会員大会・宇和島和霊神社参籠堂で行う

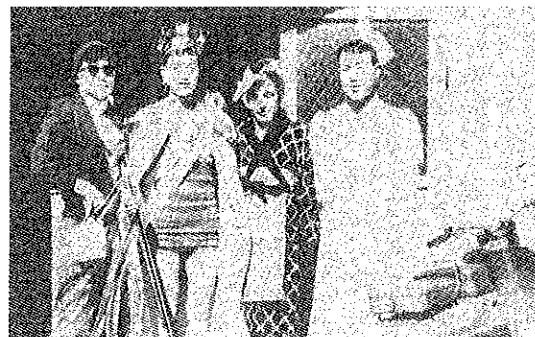
松山JC・大洲JC・宇和島JCからの募金を合せ能代市の早期復興を祈り、一万二千六百円を秋田JCを通して寄贈した。

4月22日宇和島に於いて、県内JC会員大会と親善野球大会が開催された。会員大会は和霊神社参籠堂で行い、野球大会は城北中学校グラウンドで行った。

野球の戦績は、八幡浜は宇和島に5対2で勝ったものの、松山を3対1で破った大洲の対戦、9対0で負けた。

秋のみなと祭りの仮装行列では「女の一生」で参加、メンバーが老若男女に扮して出演、おしくも佳作であった。

この年4月に「JCだより」というガリバン刷りの会報・第一号が発行された。創刊号の内容は宇和島での県下JC会員大会及び野球大会の事や、観音寺・大洲・宇和島JCが日本JCに加入した事、能代の大火に救助金を送った事などが記載されている。この会報は長く続かなかったが、後々しっかりとした写真入りの活字で生まれ「JCニュース」が出来るのである。



「女の一生」で仮装行列に参加



仙台での日本JC常任理事会へ出席の三瀬理事長ミス・セタ嬢と共に松島を遊覧

**1957** (昭和32年)  
会員数35名

6代理事長  
**菊池 仙一**



菊池仙一理事長、副理事長が松本栄・山本巖氏と創立以来の古参の陣容で創立5周年を迎えたこの年、2月17日に創立5周年記念の記念式典を行った。

開催は午前十一時より午後二時迄、各界の名士臨席のもと、盛大で当日梅月より美人連が参加して大サービスを行い会員諸兄も終始ごきげんであった。

この年最大の事業は、年頭より度々打合せを重ね、企画していた「全国特産土産品展示大即売会」である。北は北海道・南は鹿児島まで全国162の都市に出品以来を出し、この会に対する菊池理事長の意気込みは大変なものであった。

4月16日より20日まで「全国特産土産品即売会」は専売公社の会場で開催された。

現在のように流通経路が発達していない当時、この催しは市民に大反響を呼んだ。好評のため、全国から集った品々は、立所に売り切れとなり、追加の注文が間に合わず大阪まで品を取りに行く程の盛況であった。4日間で百三〇万円を売り上げた。

この物産店の運賃は各地のJCまたは製造元の負担で25%が八幡浜JCの収益となった。

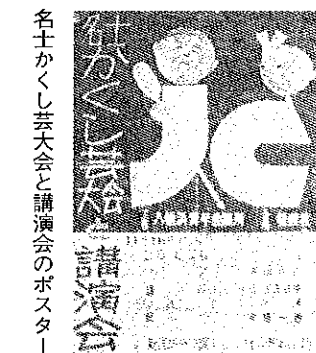
6月23日は四国地区会員大会の観音寺市へ出席した。この頃会員内にダンスが流行し、各氏はシゲシゲとダンス教室に通い練習に励んでいた。その成果を披露しようと、8月18日湾に八幡丸を浮かべ、JC船上納涼大会を行った。

各氏ダンスの相手を一人ずつ連れて船上から八幡浜の夜景を眺めながら踊るこの夏の夜の思い出は、今もロマンチックな思い出の一つとなってメンバーの心の隅に残っている。

10月15日国際JC第12回世界会議が初めて東京で開催され、理事長・片山・門の三名が出席した。

世界各国の代表者が一同に集う首相官邸・赤坂離宮のパーティ、外国メンバーと共に鑑賞した宮中の舞楽、参加したメンバーはすっかり感動しJC活動の大きな糧となった。

11月16日時局と文化の大講演会を、翌17日名士隠し芸大会を松蔭小学校で行った。



名士かくし芸大会と講演会のポスター



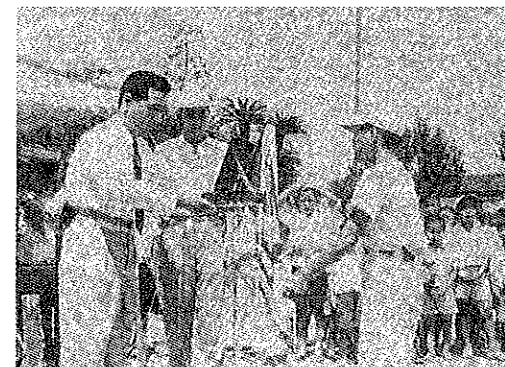
時局と文化の大講演会を終えてロンドン別館にて講師の先生方と会員

講演は作家壇一雄氏・評論家原勝氏、そして日本宇宙協会理事長の原田三夫氏であった。中でも印象に残ったのは原田氏の話しで、将来宇宙へ旅行ができるのも夢ではないという話であった。

名士隠し芸大会は出演する名士より二千元の出演料を頂き、いずれも各氏に10~20枚程の入場券を買っていただくというかつてない珍企画であった。

野本市長の挨拶で幕の開いた大会は、高岡好春・笠井清市・山下陣八郎氏の謡曲や宇都宮睦栄氏の長唄、高田助役の小唄で始まり、千代田旅館の山下コチヨさんが60才と思えぬ若さでおてもやんを踊り満場の喝采を博した。また松本ジャム商会の高橋博氏の奇術は女人裸足で、木屋薬局の久世寿清氏の土人踊りは場内爆笑のうずで沸いた。最後に松本栄氏の司会による夫婦者に対する各種アンケートの珍問答に客は抱腹絶倒し、一千名を越る観客には実に楽しい一日であった。

この時、日本JCより購入した、JCソング・若い我等のレコードを始めてかけ、会員一同、声高らかに歌ったのが最初であった。



少年野球大会に賞を渡す菊池理事長



文化講演会の講師、横山泰三・五味康祐先生を八幡浜駅で迎える